

平成25年度第1回関西のブランド力向上推進有識者委員会

平成25年12月16日（月）13:00～14:00

（以下の内容が確認された）

1. 2014年度のテーマが審議され引き続き「関西の食文化」をテーマとして取り組むということが承認された（12月下旬に記者発表、HP等の広報をする予定）。
実行委員会メンバーは留任する。
2. 2015年度以降の進め方は2014年度に3カ年の中間評価を行い、それを受けて本委員会で方針を決定する。

（冒頭 事務局より）

以下の資料について内容説明

資料1 「はなやか関西～文化首都年～」平成26年度の進め方（案）

資料2 近畿圏広域地方計画 1.文化首都圏プロジェクトについて

資料3 「はなやか関西～文化首都年～2013」の取組状況

資料4 「はなやか関西～文化首都年～2014」のテーマ（案）

【各委員発言要旨】

（河内厚郎委員：神戸夙川学院大学教授）

- ・次年度のテーマを引き続き「食文化」とすることは良い。
- ・関西の酒文化に料理以外の素材（例えば酒器。伊丹市では毎年賞金付でコンクールを開催）も加えて拡大してはどうか。

（坂上英彦委員：京都嵯峨芸術大学教授）

- ・次年度のテーマを引き続き「食文化」とすることは良い。
- ・はなやか関西の立位置が予算的にも仕組み的にも遅れている。本来はここが主体となり関西の文化を打ち出すべき。経済産業局や農政局の予算が莫大なので、その辺との連携、実地主体の整理をすべき。
- ・近畿一帯を幅広くテーマで束ねるよりも、地域とテーマを絞る重点化には賛同する。
- ・他地域に対する関西の文化優位を表すものの一つとして、芸術大学の数が多いことが挙げられる。

（千田稔委員：奈良県立図書館情報館長）

- ・次年度のテーマを引き続き「食文化」とすることは良い。
- ・大阪は天下の台所でもあるし千日前の道具屋筋あたりに着目して、食文化の土台である台所（キッチン）

を取り上げるのも面白いと思う。

(橋爪紳也委員：大阪府立大学特別教授)

- ・ヨーロッパ文化首都年型の取組みは、今年から始まった「東アジア文化都市（文化庁）」と枠組みが被るので、はなやか関西で行うのは難しいのではないかと。
- ・近畿地整らしい取組みが必要。具体的には整備局所掌の事業（道路、河川等）の完成・供用とその地域の特色あるテーマを組み合わせる取組みが良い（節目と地域とテーマが一体となった取組み）成功例として愛媛県の南予地域で開催された「えひめ南予いやし博 2012」がある。
- ・2015 年度は大阪城落城 400 年で姫路城の改修も終了しているだろうからクールジャパンと絡めて城・戦国モノも面白い。
- ・また近い将来では、歴まち法の分野で堺の仁徳天皇陵含む百舌鳥古墳群が世界遺産登録を準備しており使えるかもしれない。このような他省庁との境界的な事業（歴まち法、シーニックバイウェイなど）も良いのでは。
- ・オリンピックに向けて文化プログラムのような地域から盛り上げる提案を発信できたら良い。私は「大阪万博 50 周年記念博覧会」を行いたいと思っている。

(堀井良殷委員：(公財) 関西・大阪 21 世紀協会理事長)

- ・次年度のテーマを引き続き「食文化」とすることは良い。
- ・コアイベントを中止すると知名度がさらに下がるだろう。
- ・ヨーロッパ文化首都運動のようにある地域を選定してその都市が元気になるという方向が良い。総花的にやるよりも注目度・インパクトある、実効性のある、地域にとってありがたいのある取組みが必要（「テーマ」より「地域」に重きをおくべき。取組みの重点化）
- ・長期視野に基づく予算化が必要
- ・同じ関西ブランドに取り組んでいる関西広域連合との連携も必要。
- ・知名度向上のためにははなやか関西のステッカー作戦を展開してはどうか。
- ・オリンピックに向けて文化プログラムのような地域から盛り上げる提案を発信できたら良い。

(村田省三委員：アートコーポレーション(株)専務取締役)

- ・現在の取組みは地道で評価できるところもあるが、インパクト不足。
- ・次年度「食文化」は良いが「食」は関西だけでもないし、はなやか関西としての切り口が難しい。
- ・12 月に関経連が関西広域文化研究会を立ち上げた。私も分科会の座長に任命され、関西ブランドを海外に展開していく際のバッジの作成等（はなやか関西の英文標記など）を担当することになった。そちらの枠組みには整備局も広域連合も加入しているし、一緒になにかできたらよいと思う。